

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200021		
法人名	株式会社 橙菓舎		
事業所名	グループホーム こもれびの家		
所在地	恵庭市島松寿町1丁目16-5		
自己評価作成日	令和3年 1月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kan=true&jiyosyoCd=0191200021-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=0191200021-00&ServiceCd=320&Type=search)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年より流行している、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、こもれびの家としても、入居者の命を守る行動を優先とし、いち早く感染予防に力を入れてまいりました。当初は外出が出来ない事や、家族や地域の方、多職種との関りがほとんど持てなく、グループホームとしての役割を果たしているのかとジレンマに陥った場面もありました。しかし、そんな中でも入居者様の生活の質を可能な限り落とさないように、普段から取引のある農家より、大豆のより分けのお仕事を頂いたり、100坪ほどの小さな規模ではあるが、荒れた土地を草削りし、一から機械を使わず手作業で畑を作り栽培から収穫までを入居者を主体とし行ってまいりました。コロナ禍だから「できない」ではなく「出来る事はなにか？」に考えをシフトし社会参加ができるよう取り組んできました。先の見えない中、今後も私たちにで見る事は何かを考え、支援の提供に努めていきたいと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームこもれびの家は、恵庭市郊外の住宅街に位置し、防風林にも近く、季節の移り変わりを感じる事ができます。現在はコロナ禍で中断していますが、地域でも認知症高齢者の住まいとして認識され、運営推進会議や避難訓練、行事への参加があります。利用者は徒歩10分ほどにある事業所の畑で、野菜の栽培・収穫を行っています。また、地域の提携農家の野菜の選別作業なども楽しみながら行っています。家族との面会自粛が続きますが、その中でも職員は「出来る事は何か」を考え、LINEを活用してリモート面談を行っています。効率化と利用者サービスの向上のため、事業用のLINEを導入し、日常業務の報告や、書類の電子化、職員間での情報共有を進めています。

## V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員数の2/3くらいが 3 職員数の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所として「気配り・目配り・心配りを大切に心からの支援を行います」という理念を掲げ、玄関やユニットへ掲示し常に意識できるよう努めている。また、その理念の中の「自分らしく生きる」という文言を念頭に置き、個々を尊重した生き方が出来る様支援に努めている。	開設当初からの理念を玄関や共用空間に掲示しています。また、事業所通信にも記載し、家族等に対して理念の浸透に努めています。さらに、職員への意識付けのため、半年ごとに理念に基づいて、ユニットごとの目標を定め、理念の実践に取り組んでいます。	現在はユニットごとの目標を立てるなどの取り組みを行っていますが、事業所全体として理念に立ち戻る取り組みを予定しています。コロナ禍で支援の現場も大きく変化する中、職員が理念の理解を深め、個々に考え、力を発揮していくことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来であれば、常に地域の方と触れ合えるよう開かれたホームでなければならないが、今年度は感染予防の観点から、入居者の「命を守る行動」を行うよう努めており、あえて地域の方との交流は控えている状況である。	町内会の回覧板から、地域の情報を得ていますが地域行事や事業所の認知症カフェなど、多くの交流は中止となっています。事業所は地域の農家と提携関係にあり、利用者は収穫物の選別など、簡単な農作業を手伝っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、これまで行ってきた様々な取り組みが、コロナウィルス感染予防の観点から中止となり、毎年参加していたラン伴やこもれば自分で取り組んでいた認知症Cafeも例外ではなく、地域に向けての活動は行っていない状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度の開催とはしているが、市からの通達により、感染予防の観点から会議については事業所ごとでの開催という形になり、開催後は速やかに資料を各関係機関に送付し情報の共有を図っている。	今年度の運営推進会議は書面で行い、委員に資料と議事録を送付しています。委員と情報の共有や支援に関するアドバイスを受けています。会議を再開する場合には、引き続き家族に参加を呼びかけていくことになっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料送付で情報の共有を図るほか、ホーム長を筆頭に必要な場面で市の担当者と連絡をし、コロナ禍でのホームの実情や医療との連携の難しさを伝え、アドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、身体拘束をしない為の11項目を念頭に置いた支援をするよう心掛けている。身体拘束委員会で話し合ったことは各ユニットの委員会メンバーを介して共有している。	毎月、系列の事業所と合同で身体拘束適正化委員会を開くと共に、内部研修を実施しています。会議では、事例を基に話し合いを行い、意識の共有に努めています。会議に参加できない職員には、事業用LINEを使って会議の内容を伝え、意識を共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回の身体拘束委員会の中で、各ユニット内で上がっているヒヤリハット報告書に基づき、虐待に繋がる事案がないかの検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を感じる場面はあるが、現在のユニット内では対象者がおらず、また、コロナ禍という現状も相まって、外部の研修などへの参加も出来ておらず、学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、主契約者に直接ホームに来て頂き、契約業務を行っている。重要事項の説明中は適宜質問が無いかを尋ね、可能な限り疑問や不安などはすぐに解決できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回必ず送付している家族へのお手紙の中に、お気軽にご意見を頂けるように一言添えている。玄関に意見箱を設置しているが、活用実績が無いため別の方法を考える必要性がある。	事業所通信と共に、利用者ごとに日々の様子を記した手紙を家族に送っています。また、家族にはLINEを使い、リアルタイムで利用者の情報を伝えています。LINEを使いリモート面会を行うなど、利用者や家族の意向を運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で密を防ぐために、会議の頻度は少ないが、日常的にホーム長をはじめスタッフ間で共有のライングループを作成し情報の共有であったり、提案を反映出来る様努めている。	管理者と職員はLINEグループで情報の共有と検討を行っています。管理者は、LINEや日々の申し送り時など、職員との関わりの中で、意見や提案を聞くことに努めています。今年度、職員から加湿器の増設提案があり、追加導入につながりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトの作成前に各々の勤務希望を聞き、プラベートの時間も大切に出来る様努めている。また、年5回所得しなければならぬ有給休暇についても、有給の残数を把握し、個々の希望に応じ積極的に取得できるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、参加できる研修は限られているが、感染予防の研修を中心にリモートによる研修参加を促している。また、実際の業務中に今後必要な対応として、感染予防のためのガウン着用方法の実技を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍により、交流の機会はほとんど持っていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前は、入居前に必ず自宅へ訪問したり、他施設へ行き、面談をする機会を設けていたが、コロナ禍によりそういった働きに制限があるので、可能な限りケアマネや相談員、家族にいつも以上に時間を掛けて詳しく情報を聴取し、入居後の生活の支援に役立てられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人の暫定的なケアプランを作成しており、作成の段階で必ずご家族へ要望を聞き、プランに反映出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に得た情報をもとに、ホームとして実現可能な事案に関しては、自負担金などの説明をし、ご理解をいただいたのち、ご本人のニーズに合わせたサービスを導入出来る様検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念に基づき、入居者が生活の主体となれる様、関係性の構築や、ご本人の持つ性格や脳の気質の変化から現れる個性を理解し、その時に必要な支援を提供できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前にご家族へセンター方式シートをお渡しし、過去の情報や経歴などの情報を収集し、支援に役立てられるようご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防対策により、外部の方との面会は控えているが、馴染みのある方と電話やラインを利用したテレビ電話などで交流の機会を設けている。	コロナ禍のため、馴染みの人との面会は難しくなっています。利用者の持参したアルバムを開き、写真を指差し、昔の話を聞いたり、家族から新しい写真をLINEを通じて送ってもらうなど、利用者の中で、馴染みの関係が薄れないような工夫をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での共同作業を通じて、入居者同士の関係性の構築に努めている。中には折り合いの良くない方もいらっしゃるので、不要なトラブルを避けるための介入も出来る様観察している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去後も、行先に困らないように随時相談を承っている。また、入院中も担当の相談員などを通じ現状の把握に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はご家族より頂いた、センター方式シートを活用しプランへ反映させている。また、日常の何気ない会話の中から、ご本人の意思を汲み取り、支援に活かしている。	利用者の思いは、会話や表情から汲み取るように努めています。利用者の特徴的な動作や家族からの情報を、LINEを使い職員間で共有し、日々の支援に繋げています。また、気圧の変化による利用者の状態変化に着目し、支援に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集はもちろんだが、ご家族へお渡ししたセンター方式シートにより、現在だけではない過去のご本人の情報を収集しその方の「人となり」の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活のペースについてはスタッフ全員で、観察記録を徹底し、ちょっとしたご本人の言動からニーズの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や、日々の引継ぎ業務の中から毎日のご本人の変化にすぐに気づけるよう情報の共有を図っている。また、気になる事や気付いたことはユニットラインにて全員が把握し、発信できる環境を整えている。	介護計画は3か月毎に見直しを行っています。ユニット会議で職員の意見を聞き、家族や訪問看護師の意見を取り入れ作成しています。計画は支援内容を具体的に記載しています。利用者の状況に変化のあった場合は、都度見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常で使用している、記録用のタブレットにプランの実施状況を記録している。また、ヒヤリハット等からも情報を共有したり、休みのスタッフにも情報が伝わる様ラインも活用しながら支援内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のご本人の状態に応じ、理学療法士や看護師などからアドバイスを頂き、支援に生かしている。また、認知症の状態についても、変化が現れ対処が必要と判断された時は、ご家族へ専門医への受診を勧めさせていただく事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段から取引のある農家より大豆の選別作業のお仕事をもらい、作業に応じた報酬を得ることで、社会参加ができていと感じて頂けるような場面づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでかかりつけであった病院との関係性を保ちつつ、ホームとして協力病院となっている医療機関もある事をお伝えし、家族や本人に選択していただいている。	利用者は希望する病院を受診することができます。通院には職員が同行し、日々の状態を医師に伝えています。協力医療機関による月2回の往診と、毎週の訪問看護で、利用者の健康を維持しています。看護師は24時間連絡、相談ができる体制となっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間365日連絡相談できる体制がある。また、隔週火曜日に看護師が訪問していただき、入居者の体調管理や支援に係るアドバイスを頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者が居た場合、現状コロナ禍という事で面会は難しいので、直接病棟へ連絡し相談員を通じて状態の把握に努めている。また、退院後の支援に支障をきたさない様ドクターとのICには積極的に参加させて頂き、早期退院に向けてのご相談をさせて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針を整備し、入居時はもちろんだが、入居者の著しい変化が見られた時は、家族の同意を得て看取りの契約を行っている。また、契約に際して、ドクターより看取りの診断書をもらいホームで出来る事、出来ないことのご理解を頂きながら、個別で訪問看護師とのプライベート契約を締結して頂き、安心して最後を迎えられる準備をしている。	重度化の指針を整備し、入居時だけではなく、利用者の状態にあわせ、都度、家族に説明し同意を得ています。医師の診断書に基づき、事業所のできることを説明し、家族と看取りの同意書を交わしています。また、利用者は個別に訪問看護師と契約し、最期まで安心して暮らせるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として緊急時対応マニュアルを作成しており、定期的に振り返る機会を設けている。本年度はコロナ禍という事もあり、普通救命講習を受講する機会は設けられていないが、ホーム長を始めとし、業務の中で緊急時の対応策を常に話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染予防の観点から、密を避けるため避難訓練は日中の火災を想定した訓練を一度しか開催できていない。本年度はホーム内で出来る、自主避難訓練が出来る様工夫したい。	今年度は日中の火災を想定した避難訓練を1回行いました。火災以外の災害に対してもマニュアルを整備しています。水や食料だけではなく、感染対策の備品も十分に備蓄しています。自家発電機も設置し、万一の停電にも備えています。	事業所として年2回の訓練を実施し、夜勤職員を含め、全職員が少なくとも年1回は参加し訓練する事を期待します。今後は、火災だけではなく、地震やその他の災害に対しても訓練実施を検討していくことを期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念として、個々の個性を尊重を謳っているが、日々の業務の中では意識が薄くなってしまふ事もあるので、半年に一回の個人面談にて、再度理念を振り返り意識付けを行っている。	管理者は、職員が利用者の人格や尊厳を損なわないように、言葉づかいや態度に気を付けるように指導しています。さらに、個人面談において、理念を振り返り、意識づけを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援者側の一歩的な支援になりがちなので、上げ膳据え膳では1年後の入居者の姿がどう変化してしまうのかという事を、ホーム長や管理者より現場の中でスタッフへ伝え、入居者が自己決定する大切さを伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居前に頂いた情報や、日々の生活の中からご本人の要望をくみ取りプランに反映している。また、ホームとして決められた日課などは定めておらず、これまでの生活に可能な限り近く状態を作れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の面談にて、馴染みの物の持ち込みの大切さをご家族へ説明し、趣向の把握をしている。また、更衣時などご本人に服を選んでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから後片付けまでを入居者が主体で行えるようお膳立てを行っている。個々により嗜好の違いがあるので、必要であれば別メニューの作成も行っている。	献立は利用者の希望や手持ちの材料、天候などを考慮して、当日に決めています。天気が良ければ外で焼き肉や流しソーメン、焼き芋を焼くなど、柔軟に対応しています。また、地域の飲食店に弁当を発注するなど、食を通じた地域とのつながりも大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の観察、記録を行い、栄養状態ん歩把握に努めている。また、栄養スクリーニング加算を導入しており、毎月の食事量や体重の変化等医療の視点からアドバイスを頂く機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	高齢者の死因で最も多いのは肺炎であり、肺炎を引き起こさない為の工夫として、口腔ケアに力を入れた支援を行っている。また、歯科医推奨の入れ歯洗浄剤を導入したり、毎月の歯科医師による口腔衛生会議にも参加している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを観察・記録しスタッフ全員で共有しながら、定期的に引継ぎなどの中から大きさや吸収量の違うパットの検討を行っている。また、排泄パターンを把握し、定時でのトイレ誘導などを行っている。	職員は利用者の排泄記録や動作、習慣を共有し、トイレへ誘導する事で、昼夜全員がトイレで排泄しています。また、パット使用时には、大きさや吸収量、付け心地などを検討し、利用者の意見も取り入れて決めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や内容、水分量などを記録し、スタッフ全員で共有している。また、便秘傾向にある方はお薬だけではなく、食物繊維を多く含む食事の提供や、生活の中での動きを多く取り入れ、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に浴った支援をしている	入浴日は定めておらず、これまでに入浴されていた時間帯を考慮し好きな時に入浴出来る様お話をしている。	入浴日は定めず、週2～3回を基本に利用者の希望する時間に入浴しています。入浴後は都度、換気、浴槽清掃、消毒し、利用者は新しいお湯で入浴できます。入浴拒否の利用者には、銭湯や系列事業所での入浴など、場所を変える工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めておらず、その日のご本人の気分に合わせて対応している。また、日中の活動量や疲れ具合などを考慮し入賞を促す場合もある。足浴などで体を温める工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	任意にはなるが、入居者個々で、日頃か取引のある薬局と個別で居宅管理指導契約を締結し、必要なアドバイスや薬剤の管理を行って頂いている。また、何か変化があればすぐに報告連絡できる環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に頂いた情報の中から、ご本人の昔からの嗜好や興味のあることなどを考慮し、プランに反映している。包丁磨ぎや大豆のより分け作業など得手不得手を見極めながら支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これまでは、毎日外出の機会を設けられていたが、コロナ禍という事もあり、入居者の命を守る事を前提に外出の支援はあえて行っていない。	日常的に散歩や、花壇づくり、徒歩10分程度にある事業所の畑へ、手入れや収穫に出かけています。コロナ感染が落ち着いた時期は観光牧場に出掛けたり、ドライブコースにあるソフトクリーム屋まで15キロほどを利用者、職員が交代で走る一人ラン伴を行い、外出と食を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームとして、上限金額は定められているが、お小遣いをお預かりし、趣向品や消耗品などの購入の支援を現在はスタッフが代行させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会を謝絶しているので、タブレット端末やスマートフォンの動画などで、顔を合わせていただく機会を設けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム裏が防風林となっており、窓からは季節の移り変わりが目で見てわかるような建物の作りになっている。また、季節ごとの飾りつけで、見当識の維持に努めている。	居間の中央のテーブルでは、台所やスタッフルームからの職員の見守りを受け、利用者がゆったりとくつろいでいます。温度、湿度、換気に配慮しており、加湿器とタオルなどを干すことで湿度を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットにソファを2台設置し、自宅で過ごされているような空間を作るよう家具の配置を行っている。また、入居者同士の関係性に考慮し、テーブル席の配置にも気を配り、不要なトラブルを回避できるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後のリロケーションダメージを可能な限り少なくするために、ご家族やご本人と相談の上自宅に居たころのような馴染みのある家具の配置が出来る様気配りをしている。	季節ごとに飾りつけをした表札をかけ、利用者が自室と分かるようにしています。タンスや使い慣れたイスを持ち込み心地よく過ごせる工夫をしています。衣類はきれいに整理し、清潔に暮らす配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除道具などはあえて入居者の目の届く場所に置き、入居者がそそられて作業したくなるような工夫をしている。また、キッチンも入居者の手が届くところによく使う食器類などを置き、スタッフが介入しなくても作業をスムーズに行えるよう配置の工夫をしている。		